県　連　総　会

報告：伸二

３月６日12:30～長野県連第57回定期総会が新型コロナ感染防止のため、初のZoomによるオンライン開催となりました。総会には大町労山より県連副会長の伸二、理事の白馬の山人、いそはた、代議員の尾形、秀さ、オブ参加でEIEI 計6名が参加しました。総会は代議員19名中18名の参加で成立。

総会は池田会長、来賓の長野県山岳協会副会長伊久間さんからの挨拶を受け議事に入りました。

活動報告では、今年度も新型コロナ感染防止の為、北信越交流山行や、乗鞍高原で予定した冬の県連交流山行を含め中止する行事や会議がオンラインになった等の報告や、感染対策を行いながら教育部では少人数だが、雪上・岩登り講習会を実施し、山筋ゴーゴー体操講習会では、体育館で19名の参加者で無事実施した。との報告もあった。組織人員は今年度も「山の会ながの」が、高齢化の為脱退するなどで、会員の減が進んでいるが、そのような中でも少しずつ会員を増やしている会が4山岳会ある事も報告された。全体的には高齢化が進み会員の減少が続いています。

方針では、今後を見据えた組織拡大や県連やグロック単位での交流山行の開催を呼びかけています。また、教育部・遭対部による教育・訓練計画等が提起されました。財政方針では新に財政部にも役員手当を支給すること。21年度使われなかった活動費から還付金として会員1人に800円還付する事が提案され、全ての方針が賛成多数で採択されました。

全体としては、初めてのオンラインによる総会なので、各人参加する場所も自宅、友人宅、会の事務所など点在しており、全体の雰囲気、発言者の顔もよく見えない時があったりで発言者が少なく討論にはなりませんでした。コロナ禍の中なのでやむを得ませんが、会員が増えている会の運営等が聞かれれば良かったと思いました。もっとオンライン会議に慣れて司会が上手に仕切れば小会議には良いと思いますが、総会のような大人数で顔見知りでは無い代議員と議長、執行部で行うにはやはり一堂に会して行うよう少し延期した方が良かったのかも？と感じました。

感想・・・EIEI

コロナ禍であり顔を見ての会議ができない現状では致し方ないが‥。

役員それぞれのネット環境が違うので声が聞き取りにくかったり、顔がうまく映っていなかったりと統一するには中々難しいものだとの印象を受けました。

議案に沿っての通り一遍的な会議となり、質問意見等がなく寂しいかぎりでした。私が役員をやっ

ていた頃に比べて会員数も減少の一途を辿り半減。若者は組織を嫌います。現状では組織に入らずとも山の店やネットを利用すれば、保険も入れてスマホ便りに道迷いもなく、今は簡単に山に行けます。

しかしながら今は懐かしく思う。この県連の組織に所属していたからこそ、全国の女性達の集いを毎年各県連で主催し、長野県連の女性達も県外に出かけて行った。そんな活発に活動した時代があったことをお伝えしたい。

♫　ようやく春が来た　♫

光城山・子ノ神地区～長峰山へ常念岳を眺めながらエスプレッソマシンでコーヒー！！
漸くフクジュソウが咲き始めた。残雪の中から顔を出す。今年の冬は雪の重みを感じたことだろう。この暖かい陽気で一気に咲き始めた。黄色が眩しすぎる。そして・・・。長峰山でエスプレッソを入れて、牛乳持参してミルクフォーマーでカフェラテを作る。おしゃれに！！

光城山・子ノ神地区

長峰山

辰野町
セツブンソウ・・白い花弁は珍しい

♪♪　いつ春が来る？？　♪♪

戸隠へスノーシューイング　　２０２２・３・１３
さかちゃん・EIEI・じゅんちゃ＋４
報告＆感想　じゅんちゃ
　松川を７時に出発。今回は長野市経由で戸隠に向かうことにした。善光寺裏から戸隠に向かうが思いの他、戸隠までは遠く感じた。

奥社入口の有料駐車場には既に M グループは到着していた。駐車場を９時２５分出発し大鳥居を進み髄神門へ。ここからは参道の杉並木の中を圧雪されている道を慎重に奥社に向かう。奥社は二メートルを超える雪で覆われ圧巻。参道を髄神門へ戻りここからスノーシューで樹林帯の中、天命稲荷を経由し鏡池に向かう。
鏡池は雪に覆われ望む西岳、本院岳が屹立し迫力がある。信州百名山でもありいつかは登ってみたい山の一つである。その後駐車場に戻り戸隠神社中社に向かい近くにある H さんが予約しておいてくれた「蕎麦処うずら家」で美味しい蕎麦をいただき、鬼無里村、小川村を経由し帰宅したが、鬼無里村と小川村とでは積雪が歴然と違った。

さかちゃん

長野の H さんが担当してくれた戸隠スノーシューに参加しました。戸隠神社から、奥社➡鏡池へと周り、役 4 時間ので周回してきました。沢山の人がスノーハイクに来ていてツボ足でも歩ける状態の雪質でした。戸隠連峰が目前に大きく！！迫力ある風景でした。非日常を味わいリフレッシュ出来ました。帰りは中社近くの名店蕎麦屋「うずら屋」に立ち寄り舌づつみを打ち、帰路に着きました。

赤星山 1453M（四国中央市）2022.3.3

森高・＋１（四国中央ハイキングクラブ）

コースタイム　野田登山口 7：00➡機滝 7：30➡紅葉滝 7：40➡布引滝 7：47➡玉すだれ（滝）7：51➡豊受山分岐 8：05➡千才滝コース分岐 8：31➡山頂迄 2 km（アイゼン装着）
9：00➡頂上 11：00➡祠にて昼食➡下山 12：00➡登山口 15：00

報告＆感想…森高

自宅より登山口まで 15 分だが、いつでも行けると思うと中々足が向かないものである。端正な山容が「伊予小富士」に例えられる人気の山です。かの西行法師も「忘れては富士かとぞ思う、これやこの伊予の高嶺の雪のあけぼの」と詠んでいます。
渓谷沿いの登山道で滝がいくつもあり、コースは 7 本の橋と奇岩を鑑賞しながら谷を詰めていく。急登ですが良く整備された登山道です。山頂の祠の屋根には赤く塗られた星が光り輝いて楽しくなりました。山頂からは中国地方の山、瀬戸大橋、しまなみ海道をみることができ、疲れを忘れます。春にはカタクリが迎えてくれます。今回の山行でのヒヤリハットはアイゼンをつけるタイミングですが、危ない事を経験しないと中々付けないのが反省点です。

(~♪ 近 況 報 告 ♪~)

参加する四国中央市登山ハイキング協会が地方紙に取り上げられました。白い帽子が私です。
月 1 回市民登山を実施し、15 名程の参加狩り指導員として手伝っています。会長ですが、白馬の山人・五十畑・秀さん 3 人を足して２で割ったよう名人で山を愛し少年の心を持ち、大人になった方で楽しい人です。

森高さんが愛媛新聞に載りました！！

愛媛新聞

〔第３種郵便物認可〕

三ツ足山山頂のプレートを補修する重松さん

世界的登山家 市民と共に

四国中央 重松さん 古里の山でガイド

「大勢に魅力伝えたい」

かつて世界の山を股に掛けた四国中央市のベテラン登山家重松文剛さん(81)が今、市民向け登山イベントの案内役を務め、山の魅力を大勢に伝える活動に取り組んでいる。毎月1回、市内の山に登って初心者や仲間らと談笑を交わす第二の登山人生。「命を懸けた若い頃よりも山を楽しめているかもしれない」と笑顔を見せる。

重松さんは1977年に当時未踏峰だったパキスタン・カラコルム山脈ビアーレの登頂に成功した。ネパール・ヒマラヤ山脈の高峰メラ・ピーク、北米最高峰マッキンリー(現デナリ)、欧州アルプス最高峰モンブランなど世界の名だたる山を制覇しており、県人登山スペシャリストとして長く活躍してきた。

イベントは「市民登山会」(四国中央市登山・ハイキング協会主催)と題して2006年にスタートした。協会の会長を務める重松さんが、自身の経験と知識を生かしながら山の魅力を伝えていこうと企画した。

市民登山大会ではこれ

登頂を記念して写真を撮る市民登山大会の参加者

本人

高峰温泉スノーシュー2022/3/4.5

参加者 秀さん、ねばさん、順子

3 月４日安曇野～高峰温泉～高峰山～うぐいす展望台～高峰温泉 泊

５日 高峰温泉～池の平湿原～高峰温泉～安曇野

報告＆感想・・・順子

以前から雪の高峰温泉へ行きたいと思っていた。雪道の運転に自信がな

いので、そこだけ秀さん頼み。到着後、早速スノーシューで高峰山へ、雪庇が怖そうで途中でやめようかと思いつつ頂上まで行きましたが、頂上からの眺めはとてもよく、登ってよかった！新雪の中を歩くのは、とても楽しかったです。

高峰温泉は、石鹸やシャンプーは、必要ない泉質だそうで、洗うだけで、体の汚れが落ちるのだそうです。なので、設置もしてありません。露天風呂を含め 3 か所あります。翌日は、スノーシューの後、露天風呂も中止されるほどの強風の中、寒さに強いおばさん 2 人しっかり露天風呂を楽しんできました。

感想・・・根橋

3 月 2 日鷹狩山頂でおにぎりを食べながら「冬の高峰温泉に行きたいね」との話しからなんとその場で T さん電話予約。で、4・5 日ランプの宿高峰温泉に行ってきました。超スピードで決まった温泉旅行。

① イワナの骨酒は 2 合 1700 円。出したっぷりだと盃を交わす。その後まだ出しが出るとなんと 2 回（4 合）も燗酒を注文。「もう出ませんよ」と女将さんに笑われながら言われてもいやいや大丈夫と。少し時間を置いておくと本当に出しが出ている。まだまだいけるとほくそ笑んだ。美味しかった。地ビールも美味しかった

② 雲上の野天風呂は強風で入ったら出られず、ずーっと湯に浸かっていた。衣類が飛ばされたらどうしようといいながらも衣類の確保はせず。とにかく出たら寒い。出たくない。湯から出る時どうしたら寒くないかをあれこれ考えた私達、まるで少女（そうです女が少ない）一瞬風がやんだ隙に慌てて出た。長時間浸かっていたためかその後はぽかぽかだった。ここでは笑った・笑った。コロナ下の中こんなに大きな声は久しぶり。

夕食後何かイベントがあるようなのでロビーに行った。9？才元オーナーの男性のお話し。これがまた面白く皆最後はクスクス。「今の温泉を見つけたのは私。今度は息子が新しい温泉を見つけた。この辺りは景色がいい。昔は道が険しかったのでいい景色が見えるようにダイナマイトで山を崩して道を造った。ダイナマイトの扱いは昔やったことがあった」など。これを繰り返し繰り返し話した。3 回目を聴くころから皆の顔はクスクスになった。中には一緒に合唱する人も。この 2000 メートル雲上の宿でエンドレスの話しを聴けたことはやっぱり微笑ましい思い出となった。

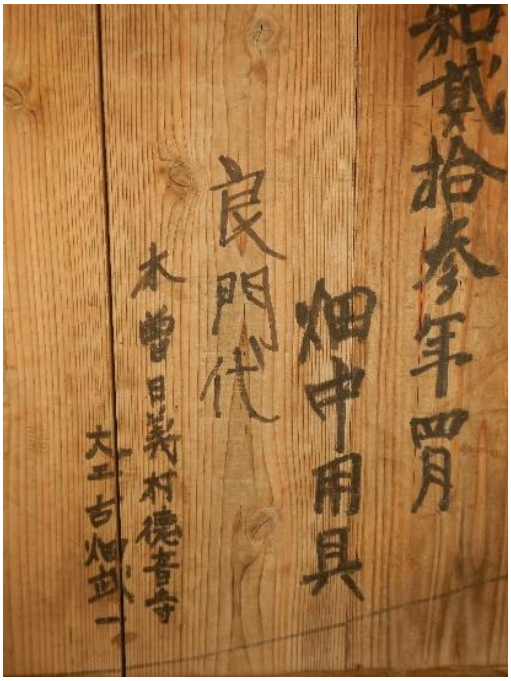
虫倉山 2022/3/17　参加者　秀さん・尾形・津田・聡子

山行報告（感想など）・・・聡子

虫倉山のさるすべりコースに挑戦してきました。奥の院横の最初の鎖場が高度感があり下りが心配になりました。山頂手前は細い尾根の急登で鎖の連続でした。グズグズに溶けた雪の下の葉っぱがすべりやすかったです。雲が多くて山頂から景色は見れませんでしたが久しぶりの山登りは楽しかったです。

我が家にある「のし板」・・・じゅんちゃ

2月26日に EIEI 達が行った木曽町の山吹山の計画書を見ていたら、気になる文字が目に入った。徳音寺と地名である。早速今は使用していない「のし板」の裏を見て納得した。
それは、戦後祖父が自宅の修理をしたりした頃に、牧部落には木曽から大工さんが来ていた。
その時に「のし板」を祖父は大工に頼んで昭和23年4月に作ってもらった。
木曽は米が十分できないし仕事もなかったであろう。それで出稼ぎに来ていたと推察する。
当時は米が自由に流通できないよう統制がなされていたので、道具箱の中に米をいれ、自宅に運んでいたと生前父は言っていた。宮ノ越駅から汽車に乗り柏矢町駅まで来て歩いて来たと思われる。裏を見ると平成3年秋に父は「のし板」の裏に改造と書いてあるので切り詰めて小さくしていた。合併前は日義村と言い徳音寺には古畑姓が多くあると聞く。
父は祖父が書いた墨書が薄くなって来ていたので油性マジックでなぞってあるので文字が鮮明であるが、少し趣が損なわれたことは否めない。
徳音寺という地名は徳音寺という古刹に由来し近くには義仲館がある。



3/25　岩戸山　　1356m

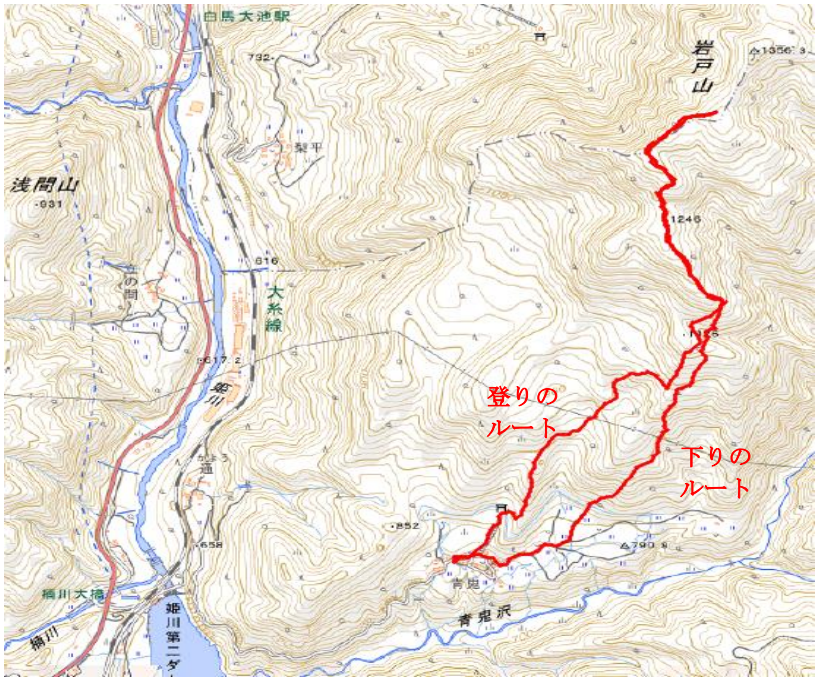
白馬の山

白馬村に青鬼地区という集落がある。重要伝統的建造物保存地区に選定され、茅葺屋根の戸数は 10 世帯余りで、冬は下界に降りて生活する人が多いらしい。生活道路は姫川第二ダムからの１本だけ。道路はかなり傾斜とカーブがあるので雪の時は大変だ。集落の歴史は古く、善鬼伝説があり、環境省の日本棚田百選にも選ばれている。稲がのび、一面緑の棚田から残雪の北アルプス後立山の山なみを眺められる絶好のロケーションは観光客に喜ばれている。ここでの特産は紫米である。

この青鬼地区に以前から気になっていた岩戸山という登山ルートのない山がある。雪の時でしか登ることができない。ヤマレコで調べたらバックカントリーを含め数本の記録がある。天気が良い 3 月 25 日単独でチャレンジした。

集落の家々は、すべて南向きに建てられ、北側の背後にある青鬼神社に続く石段を登ってから右に入る。樹林帯の中なので快適とは言えないとヤマレコでは共通のコメント。

ヤマップの地形図を頼りに登らなければならないと覚悟してきたら、なんと雪の上に靴跡があった。スマホに何らかの不具合が起こったときのために、念のために単体のＧＰＳも持ってきた。もちろん紙地形図とココヘリも。

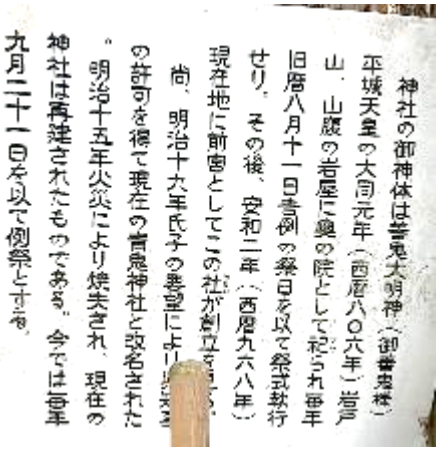


9 時過ぎ駐車場をスタート。すぐに神社への石段入り口だ。２月に下見に来たときは石段も雪に埋もれ、入山口がわからなかった。雑木の間に続く足跡をたどりながらゆっくりと進む。残雪は 50 センチ程度でやや堅く、ツボ足で登る。駐車場に車はなかったが、足跡ははっきりしているので、直近の日曜日にでも登った後か。しかし、ときどき不明瞭なところもあり、ヤマップとにらめっこ。木々の間から左手に白馬の峰々と八方、栂池などのゲレンデが見える。足跡がルートとしては明らかにおかしいところもある。つまり下らずに等高線沿いにトラバースすれば、わずかに歩く長さは伸びるが、体には優しいのに、足跡は下って登り返している。

昼までに山頂に着ければと思っていたが、展望が良いところで既に 12 時半。1250mあたりで、まだ山頂まで標高差は 100mある。定番のカップ麺とおにぎり、ノンアルコールで休む。しばらく登るとブナ林帯だった。先ほどから足がつりかけてきたので、ごまかしながら慎重に小幅で登る。限界だ。芍薬甘草湯をスポーツドリンクで飲む。休み休み、足の筋肉を抑えたりしながら進む。傾斜はそれほどないので小幅で登る。頂上の高さまで来た。よく見ると、そこは山頂ではなく、そのまま、ほぼ等高線に沿ってさらに約 250m先に山頂があるようだった。そう小さな双耳峰だ。しかし足の苦痛は限界、時間も午後 2 時半。計画では下山している時間だ。まあ、ほぼ山頂の高さまで来たので降りることにする。

下りは足のつらさがあまりなかった。午後になって雪が腐り、自分の足跡が深い。わかんを付けるべきか迷ったが、そのままツボ足で進む。調子よく降りてきたら、途中でどうも自分の足跡とは違うことに気が付いた。何日か前に登った人の足跡でもなさそうだ。動物の跡か。ヤマップを何度も見る。登ってきた軌跡に近づこうと方向を定めて進むが、いっこうに登った軌跡に近づかない。そのうちに自分の足跡が出てくるだろうと下るが見えない。斜面はちょうど八方ゲレンデのように、南に向かってお椀を伏せたように文字通り八方に広がっている。

登りは西斜面だったのに、南斜面に入って、雪解けが進んでいる。薄い雪の上に足を置くとズルっと滑る。方向に誤りはないし、沢ではないので、とにかく白い雪の棚田を目指して滑落しないように慎重に一歩一歩進む。


神社の御神体は青鬼大明神（御番鬼様）
平城天皇の大同元年（西暦八〇六年）岩戸
山、山腹の岩屋に奥の院として祀られ毎年
旧暦八月十一日吉例の祭日を以て祭式執行
せり。その後、安和二年（西暦九六八年）
現在地に前宮としてこの社が創立された。
尚、明治十六年氏子の要望により
の許可を得て現在の青鬼神社と改名された
。明治十五年火災により焼失され、現在の
神社は再建されたものである。今では毎年
九月二十一日を以て例祭とする。

ようやく棚田に出た。そこはかなり集落の東の奥で、そこから除雪していない道路を西へ。駐車場に着いたのは４時半前。実に７時間半の雪山彷徨だった。標高差は 630mほど、記録されたヤマップのデータによると、ペースは 50～70%のゆっくりと出ている。ヤマレコの記録で遅いのは６時間ほど所要しているので、それよりもまだかなり遅いペースだった。

自分の今の体力では５時間以上歩くのはきついと思っているので、「まだ行けるじゃん」と、７時間の歩行は逆に変な自信がついた。しかし、足の痛みは数日続いた。

<<編集後記>>

今年度の機関紙編集も無事に終了しました。コロナ禍で会員の山行も少なく原稿集めに苦労しましたが休止することなく発行出来た事は幸いでした。来期に繋ぐことが出来るよう、会員の皆様の積極的な協力をお願いします。